

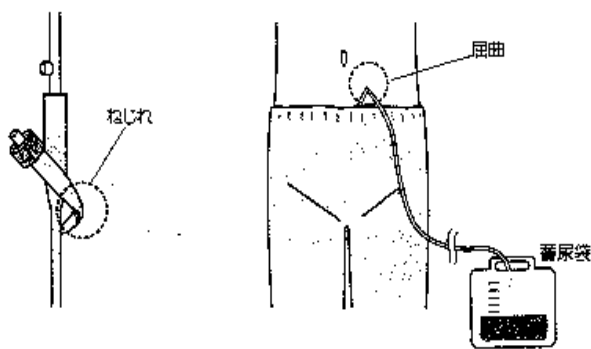


@PATIENTNAME 様

膀胱留置カテーテルを挿入されている患者さんへ

膀胱留置カテーテルは、何らかの理由で自力では排尿できない時に尿を出すために留置されます。

正しい観察・ケアをすれば在宅で十分に管理できます。以下のポイントを参考にカテーテル挿入していても気持ちのよい在宅生活を送りましょう。



① チューブの屈曲や圧迫に注意してください。

② 蓄尿バッグは逆流による感染を防ぐため膀胱より低い位置に保ちましょう。



車椅子ではビニール製のトートバッグやS字フックを利用すると固定が楽になります。

参考サイト ウロバックやカバーについて

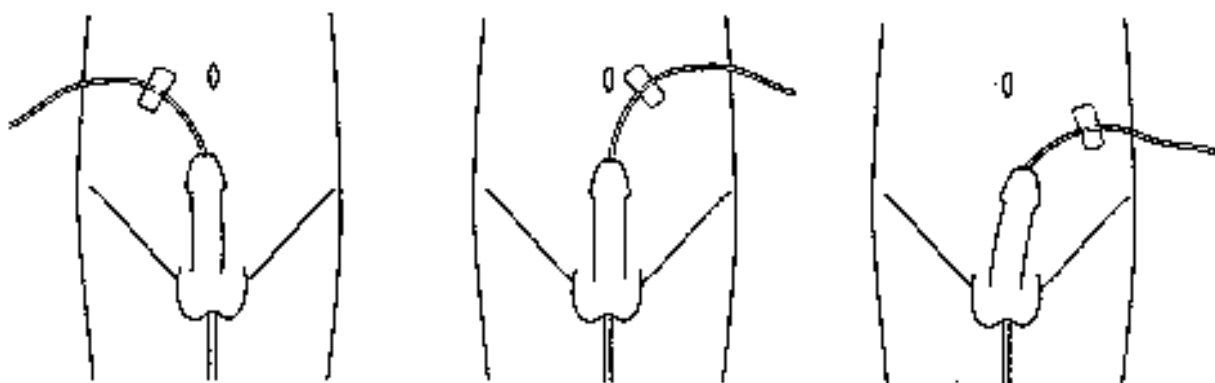
1. <http://ameblo.jp/kuru-thoma/entry-12193597035.html>
2. <https://community-network.jp/business/welfare/tamecco/index.html>
3. <http://item.rakuten.co.jp/fuhsentohwata/dp-040/>

③ カテーテルを固定する位置はできれば1日1回変えましょう。女性は太ももに、男性は陰茎を上向きにして腹部に固定します。カテーテルがたるむ程度にゆとりをもたせ、立位や歩行時に引っ張られない、ねじれない下着のゴムの位置に注意しながら腰骨の高さを目安に固定します。可能なら、1日1回を目安に固定部位を左・中央・右へと移動しましょう。テープかぶれをおこしやすい場合には下着やおむつなどで固定しますが、折れ曲がって管が閉塞しないように注意しましょう。

【女性の場合】

女性は寝ている時はカテーテルがたるむ程度にゆとりをもたせ、左右の太もものいずれかに固定します。起きて動いている時は屈曲に注意してお腹に固定しましょう。

【男性の場合】



男性の場合は足側に固定すると陰茎や陰嚢にカテーテルの圧迫が持続して、びらんや潰瘍ができる場合がありますので、陰茎を上向きに固定します。お腹とカテーテルの間に指が1本入る程度のゆるみを持たせてください。

④ 感染や管の閉塞を防ぐために水分はたくさん摂りましょう。心臓の病気や嚥下障害で十分に飲水ができない患者さんは、膀胱洗浄をお勧めしています。

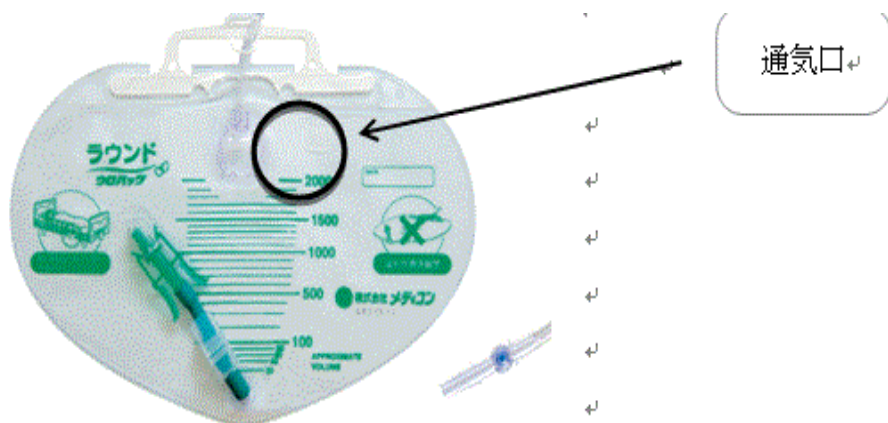
⑤ 蓄尿バッグは8時間毎に空にしましょう。DIB(ディヴ)キャップを使用している場合は尿意がなくても2～3時間毎に蓋を開けて膀胱内を空っぽにしましょう。



⑥ カテーテルが挿入されていても、毎日のシャワーや入浴は問題ありません。お風呂には入れないときでも清拭タオルなどを使って陰部を清潔に保ちましょう。

シャワーや入浴の時は前述のキャップを装着してチューブが足に絡まないようにしてください。

⑦ 蓄尿袋には通気口があります。バックを尿が入ったまま逆さまにしたり、圧をかけると通気口が塞がれてしまいます。またバックを洗浄するときもこれを濡らさないように注意してください。



⑧ 溜まった尿の廃棄について

バックの種類によって様々な漏れないための工夫が成されています。



尿を廃棄した後はしっかりと栓をしめてください。

また尿の滴はニオイの原因となりますから、廃棄チューブをよく拭き取るか、お風呂や洗面台で洗ってください。

⑨外出したいとき



レッグバックなどの各種排尿ケアグッズが発売されています。

参考サイト

1. <http://www.medical-smile.com/html/page23.html>
2. <https://www.mpi-store.com/>

⑩次のような症状がある時にご連絡ください。

- ① カテーテルを引っ張ってしまい、血尿が止まらない。
- ② カテーテルが抜けてしまった。
- ③ 下腹部痛、発熱、尿のカテからのわき漏れなどが続く
- ④ 袋に尿が溜まってこない。

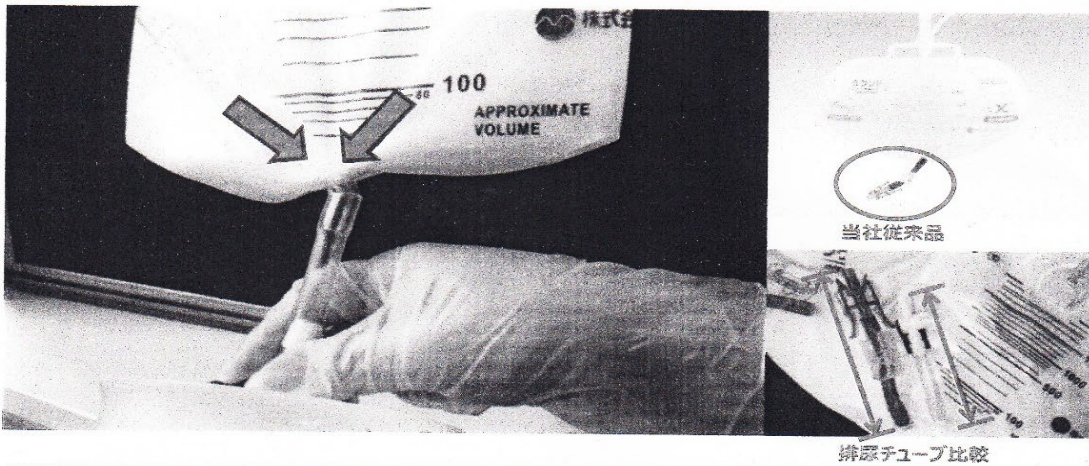
また、ご不明な点や不安な事があれば医師や看護師へ声をかけてください。

採尿バッグの取り扱い方について (株)メディコン

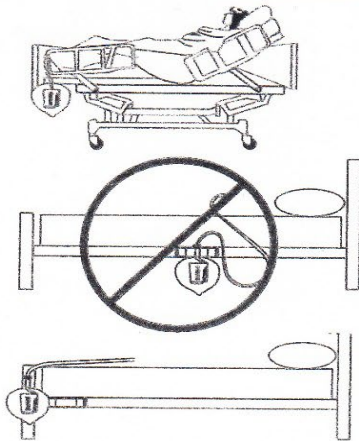
弊社ラウンドウロバッグは2017年3月末出荷分から、ラテックスフリー製品となりました。排尿チューブが従来品から変更されましたので、以下の点にご留意いただきますようお願い申し上げます。

尿廃棄時に排尿チューブを引っ張らないでください。

※破損するおそれがあります。



※ 引き続き、以下の点にもご留意ください。



採尿バッグは常に膀胱より下にしてください。

導尿チューブはたるませたり、折り曲げたりしないでください。

導尿チューブはできるだけまっすぐに、採尿バッグは出来るだけベッドの足元に吊るしてください。

以上の内容を説明いたしました。

診療科名： @PATIENTFORMALSECTIONNAME

説明医師： @ACTIVEUSERNAME

同席スタッフ：

同愛記念病院 泌尿器科

他の選択肢について

予定する検査・治療以外に考えられる手段または代替可能な医療行為を、その内容・効果・危険性および予後を含めて、具体的にかつ平易に説明につとめました。また、医学的処置を行わない場合、その予後についても説明しました。ご不明な点は理解を深めていただけるように、後日でも結構ですからご質問ください。

患者様の自己決定権について

患者様に最終的な自己決定権があること、および予定される検査・治療を拒否した場合にも不利益のないことセカンドオピニオンを得る機会があることを申し添えます。

病状の説明を受けた年月日： 令和 年 月 日

(ご本人) 氏名 (ご署名)

(代諾者が必要な場合)

氏名 (ご署名) 続柄 ()

説明日 : 平成 年 月 日